

各 位

宝印刷株式会社
執行役員・総合企画部長
小谷 隆司**有報の原稿作成・チェックからXBRL変換までの完全システム化！****「宝決算Xプレス」の販売開始**

～ 宝印刷と3CCが業務提携及び資本提携 ～

有価証券報告書取り扱いの大手である宝印刷株式会社（以下宝印刷、本社：東京都豊島区高田三丁目28番8号、代表取締役社長 堆 誠一郎）と決算報告パッケージソフト開発・販売の株式会社スリー・シー・コンサルティング（以下3CC、本社：東京都中央区日本橋二丁目1番21号、代表取締役 児玉 厚）は、平成19年7月31日付で業務提携契約を締結しました。

また、本業務提携にあわせ宝印刷は、平成19年7月31日付で3CCへ資本参加をいたしました。概要は以下のとおりです。

【提携の主旨】**< 1 . 開示業務の現状 >**

会社法の計算書類等、決算短信及び有価証券報告書の作成業務は、開示書類原稿作成業務と原稿作成後の提出データ作成・編集・印刷・EDINET変換【平成20年4月以降はXBRL対応含む】の2つの工程から構成されております。

の工程は、ほとんどの上場会社が「手作業」で行っており、監査等による決算数値の変更による影響箇所への膨大な転記・チェック作業にせまられており、「訂正短信」や「訂正報告」の大きな原因となっています。

3CCは、日本ではじめてこの領域をシステム化し、平成12年7月より「決算報告エクスプレス」を開発・販売し、法令改正の対応を行ってきており、導入実績276社（平成19年6月末現在）となっています。

の工程は、有価証券報告書については、最終段階の修正で、数字・文章等の誤りによる「訂正報告」が生じる領域になっています。

宝印刷は、平成16年10月より「X-Editor」を開発・提供し、正確で効率的な書類作成の対応を行ってきており、導入実績1,238社（平成19年6月末現在）となっています。特に、今夏金融庁が実施するEDINETのXBRL導入パイロット・プログラムにおいては、「X-Editor」のXBRL変換ツールが多くの参加企業に利用されています。

< 2 . 制度的背景 >**（1）有価証券報告書の適正性に関する内部統制監査対応**

平成20年4月1日に開始する事業年度より、金融商品取引法に基づいて、経営者は「有価証券報告書の適正性に関する確認書」にサインして、金融庁へ提出するとともに、有価証券報告書の適正性に関

する内部統制監査が実施されます。有価証券報告書の訂正報告の主たる原因は、上記 と の開示業務における「単純な記載上のミス」にあります。従って、開示業務プロセスにおける信頼性の高い内部統制システムの確立が急務となっております。

(2). 四半期報告制度への対応

平成 20 年 4 月より始まる「四半期報告書」制度により、「45 日以内に EDINET 開示」を行わなければなりません。すなわち、四半期決算短信公表前に、監査レビューを通じて決算数値が動く中で、四半期決算短信原稿と四半期報告書原稿を同時に、かつ正確に作成する必要があります。手作業で数値修正に伴う関連箇所への転記を行ってゆけば、膨大な訂正報告が生じる原因となり、四半期報告書原稿のシステム化が不可欠となります。

(3). 有価証券報告書の XBRL 化対応

金融庁は、平成 20 年 4 月以降有価証券報告書の EDINET 提出を、財務諸表部分については XBRL 形式にすることを決定しています。XBRL データは、これまでの HTML データと根本的に異なり、データの分析・比較が可能となり、その利用範囲の拡大が期待されています。

もし、勘定科目・数値部分についての誤りがあった場合、その影響度はこれまでとは比較にならないほど大きなものがあります。

このため、財務諸表の作成は、会計データからシステムにより一気通貫で XBRL 化することが求められています。

< 3 . 本提携の主旨 >

宝印刷と 3 C C の相互のノウハウを融合し、開示業務プロセス全体の内部統制システム化と 45 日以内開示への対応及び XBRL 化対応を図り、以って有価証券報告書の適正性を確保してゆく点に本提携の趣旨があります。

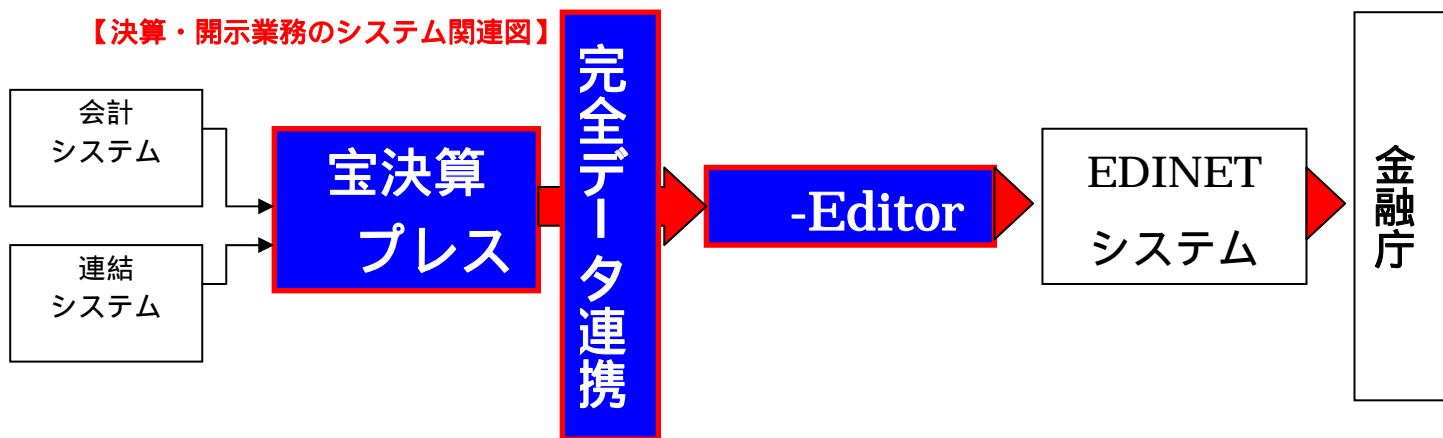
【提携の内容】

- 1 . 3 C C が開発する決算報告エクスペスを宝印刷へ OEM 提供し、宝印刷は、「宝決算 X プレス」の名で自社商品として販売する。
- 2 . 「宝決算 X プレス」で作成した有価証券報告書の全データを「X - Editor」に完全に連携することを平成 19 年 12 月末までに実現する。
- 3 . 「宝決算 X プレス」の導入支援サービス及び法令改正によるシステム変更を含む保守サービスは 3 C C が行う。

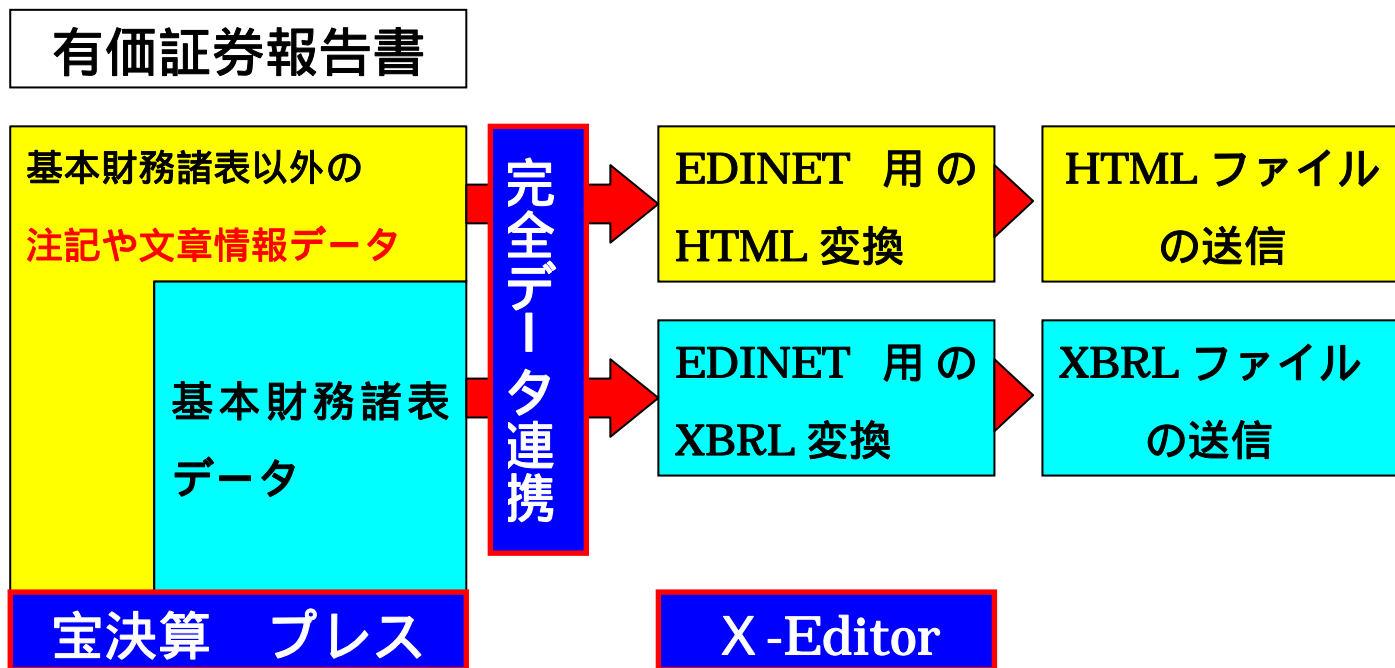
【「宝決算 X プレス」と「X - Editor」の完全連携の概要（平成 20 年 4 月以降の新開示実務）】

- 1 . 「宝決算 X プレス」に、会計システムから修正後残高試算表等の会計帳簿データを自動取込し、連結システムから連結精算表の連結上の会計帳簿データを自動的に取り込み、基本財務諸表を自動作成し、注記や文章情報の数値情報に自動反映させ、整合性の自動チェックを行います。
- 2 . 「宝決算 X プレス」より、「X - Editor」への出力を実行すると、有価証券報告書の基本財務諸表及び基本財務諸表以外の部分を X - Editor 連携用フォーマット形式でファイル出力します。
- 3 . 「X - Editor」で、有価証券報告書の基本財務諸表データを XBRL 変換を行い、基本財務諸表以外のデータを EDINET 開示用の HTML 形式でファイル出力します。
- 4 . 会社の経理責任者は、XBRL ファイルと HTML 形式のファイルを金融庁への提出用の EDINET システムに置き、金融庁へ送信手続を実行します。

【決算・開示業務のシステム関連図】



【有価証券報告書の内容とEDINET提出形式の関連図】

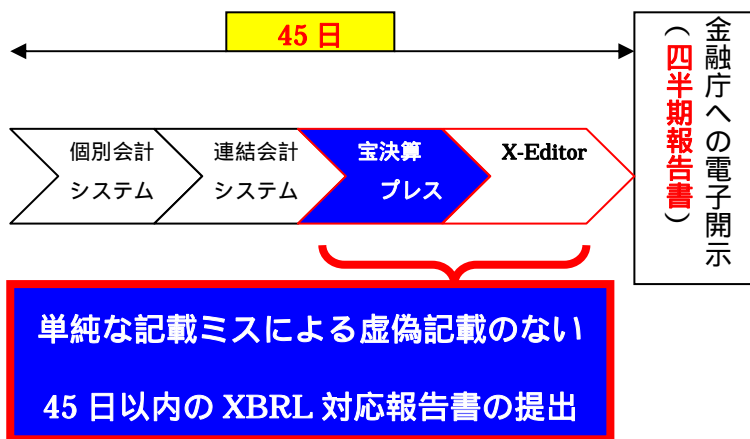


【「宝決算Xプレス導入」と「X-Editorとの完全連携」の効果】

<現状>



<宝決算Xプレス導入後>



【ご参考】

<宝印刷株式会社>

本社所在地：〒171-0033 東京都豊島区高田三丁目 28 番 8 号

業 務 内 容：証券取引法、会社法並びに IR 関連印刷物等の制作及び販売等

創 業：昭和 27 年 6 月 15 日

資 本 金：2,039 百万円（平成 19 年 5 月末日現在）

年 商：11,734 百万円（平成 19 年 5 月末日現在）

公 開 市 場：東京証券取引所市場第一部

<株式会社スリー・シー・コンサルティング>

本社所在地：東京都中央区日本橋二丁目 1 番 21 号

業 務 内 容：決算報告パッケージソフトの開発・販売、開示決算コンサルティング等

創 業：平成 11 年 7 月 1 日

資 本 金：350 百万円（平成 19 年 6 月末日現在）

【サービスに関するお問い合わせ先】

<宝印刷株式会社>

取締役 常務執行役員 営業企画部長 青木 孝次

Tel：03-3971-3241

E-Mail：aoki@takara-print.co.jp

営業開発部 執行役員 営業開発部長 田中 洋一

Tel：03-3971-3113

E-Mail：y_tanaka@takara-print.co.jp

<株式会社スリー・シー・コンサルティング>

取締役営業本部長 久保田 経夫

Tel：03-3276-3255

E-Mail：kubota@3cc.co.jp

【提携に関するお問い合わせ先】

<宝印刷株式会社>

総合企画部 執行役員・総合企画部長 小谷 隆司

Tel：03-3971-3742

E-Mail：kotani@takara-print.co.jp

<株式会社スリー・シー・コンサルティング>

代表取締役（公認会計士） 児玉 厚

Tel：03-3276-3255

E-Mail：kodama@3cc.co.jp